

「川口駅前まちづくりビジョン」の真実

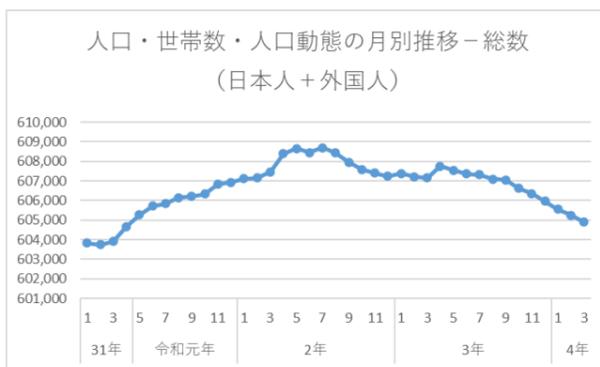
「川口駅前まちづくりビジョン」が正式に採択され、これを実現するための具体的検討が始まっています。今回の「川口駅前まちづくりビジョン」の策定は、約40年前に作成された「基本構想」を改定するものです。社会経済の変化を踏まえて、今後の川口駅周辺の整備を進めることは必要です。一方、このビジョンを現状のまま進めると、市政に大きな禍根を残すことが強く危惧されます。このビジョンについて、しっかりと議論をすることができるか問われています。

1 事業の根拠が不明確

人口増加が強調されているが、実はすでに減少傾向？

このビジョンの欠陥は、市の人口が将来減少することを考慮していないことです。特に、インフラの整備には、整備に時間がかかることや多額の費用が必要であること、次世代にもその負担を求めていくことにあることから、将来ニーズを踏まえた検討が必要です。しかし、このビジョンではこれまでの人口増加傾向だけが強調されています。

しかし、実際には川口市の人口はすでに始まっています。総合計画の推計も見直さなければならない可能性もあります。



日本人人口は平成20年代後半から減少が始まりましたが、外国人人口の増加がその分を補ってきました。しかし、コロナ禍により、外国人の来日減少によって、全体の減少傾向となりました。

川口市の財政収入は中長期的にもほぼ横ばいと見込んでいるようです。さらに財源が不足した場合、国が地方交付税交付金制度を通じて補填してくれることを期待しているようです。しかし、地方交付税交付金制度は、自治体間の財政力の不均衡を調整するものにすぎず、赤字を補填するものではありません。

将来の財政収入について危機感を持って、インフラ投資の在り方を考えるべきです。将来的な財政難に陥ることがないよう危機感を持つべきです。

2 市民の「つけ」に

問題は、財政的な考慮がないことです。ビジョンの実現のために必要な費用について質問しても、「見積もっていない」との答弁しか返ってこないし、将来の税収見込みについて聞いても、見込むのは「困難」としか回答がありません。長期ビジョンを策定する姿勢として、極めて無責任な姿勢です。

では、実際いくらかかるのでしょうか？道路整備や再開発などの費用があるので、確かに見込むことは困難ですが、市民に大きなつけをもたらすインフラ整備となります。

- ・中距離列車の停車と駅ビルに約300億円。
 - ・美術館建設 40億円
 - ・リリア改修 121億円（最大で）
- 上記だけでも、納税者ひとりあたり約10万円となります。

付言すれば、JR川口駅に列車を停めるための投資は鉄道事業者である東日本旅客鉄道株式会社が負担すべきものです。しかし、いつの間にか川口市が負担して進める事業になってしまいました。そこが、ボタンの掛け違いです。

美術館建設基本計画は反故に？

現在、進められている美術館建設基本計画は、令和2年3月に「川口市美術館基本構想・基本計画審議会」の答申を受けてから、さらに1年以上、市の内部で検討を加えて、令和3年6月に策定されたものです。

しかし、改めて計画に示された場所以外での建設の可能性を検討することになりました。行政計画とは、市の意思決定であり、決定の際には様々な情報を吟味して策定されるべきものです。にもかかわらず、策定後1年で何ら説明もなく変更されるとすれば問題です。

このため、計画変更に向けての調査費を含む補正予算には反対しました。

川口駅周辺まちづくり事業を実現するために事業費の見込みもしていない、歳入面では、今後の税収の傾向さえ見込まない。自治体経営上、強く批判されるべき姿勢です。これまで川口市が進めてきた3大プロジェクト推進の際には、それぞれ目安となる上限額が議論されてきました。こうした議論が必要ではないかと指摘しました。

政務活動費に関する報告

川口市の市議会議員には、最大216万円/年の「政務活動費」が認められています。市政についての調査研究など、議員活動に必要な範囲に限って使用が認められています。実際には、議員活動と議員活動以外の活動を峻別することが難しい場合には、通常、支出額の半額を自己負担とする案分制度が適用されます。

私は令和3年度、1,865,291円を支出、294,709万円を返還しました。支出の内訳は、活動の拠点として借りている事務所の家賃、光熱費などが、半分を占めています。令和3年度分から、インターネット公開されます。

3 将来は、モザイク模様

市の均衡ある発展の視点がありません

まちづくりに必要な視点が地域的なバランスです。芝地区や戸塚地区に住んでいても、川口市内のどこに住んでいても川口市民であることには変わりありません。すべての地域について平等に行政資源を配分していくことは、公平の観点から重要です。

川口市は、歴史的背景が異なる10地区で構成されています。しかし、これまで市政施行時に中心であった川口駅周辺にのみ目を向ける市政には問題があります。

このビジョンは「川口駅周辺まちづくりビジョン策定検討会」における計3回の検討だけで策定されました。市に長期にわたる影響を残すビジョンの策定として、十分な検討期間とは言えません。ビジョン作成が、再開発をするための手段であってはなりません。

市民の声を積み上げ慎重な検討が必要

いずれの事業も将来の川口を形づける重要なことなので、多くの市民の声を集めながら、丁寧に検討する必要があります。

政務活動費 支出内訳 碓康雄

